

ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.35 2013年9月24日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。猛暑を生き延びた花々に声を掛けながら門を開けた台風一過の翌朝、見上げる青空には絵に描いたような筋雲。慌てて屋上に駆け上がり、カメラに収めました。何とも清々しい画面がパソコンの背景を飾っています。♪小さい秋みつけた♪ どこか哀しげなあの歌が、耳の奥によみがえって来るこの季節。

「あなたは... 雲をご自分の車とし、風の翼に乗って歩かれます」(詩篇104:2-3)

校長 関野祐二

● 聖書から翼を広げて

教科書を使わず、中勘助の自伝小説「銀の匙^{さし}」を三年かけて読ませる伝説の国語授業で知られた、元灘高教師の橋本武先生が、9月11日に101歳で亡くなりました。凧揚げ^{たこあげ}の場面が出て来たら、実際に皆で思い思いの凧を作り凧揚げ大会。小説に描かれた明治の風景や季節の移り変わりを味わい、体験する、究極の脱線授業です。こちら、好奇心や感性が伸び伸び育つこんな授業にちょっぴりあこがれつつも、こと神学校の科目は最低限身につけねばならぬ知識の量が多く、勢い駆け足詰め込みになる^{うら}悔みがあります。でも、片手に乗る(といっても膨大ですが)量の聖書という書物を味わうため、四方に好奇心の翼を広げるのは大いに結構。「天」とか「星」などのことばが出ようものなら、つい脱線して「先生、終わりませんよ」と逆にたしなめられることも。9月19日中秋の名月はミクラスで屋上に上がり、満月を愛でました(拝んだらダメよ)。双眼鏡の接眼部にスマホを押しつけ、撮影に余念のない学生も。夜風に吹かれながら、ふわりと楽しい時間を共有しました。生きている、生かされている喜びを、聖書という基本ソフトを動かしながら、個々に与えられたアプリを駆使しつつ、ことばと存在を賭けてお伝えしたい、そう思います。そういえばこの間、旧約クラスでも過越の祭りの実演をして、校内に響く大盛り上がりでしたね。

● でっかいどう、北海道！

神学校の留守番(四日天下?)をY先生に任せ、二人旅は新婚以来27年ぶりとの触れ込みで、夏休み最初の週末に北海道へ。ガイドブックは買ったけど、レポート採点に追われて読む暇もなく、結局はお訪ねする卒業神学校の校長夫妻と、わが聖契卒業生夫妻に全面委任と相成りました。摂氏37度の羽田から新千歳19度の気温差ショックに始まり、初日は憧れの富良野・美瑛に、二日目は遠路、道東の阿寒湖(アイヌ衣装に大はしゃぎ)・摩周湖(霧が晴れて湖面が見えました)・屈斜路湖まで。大地の広さ美しさはもちろんですが、今だから聞ける在校当時の神学校もよま話や卒業生の動向を、長時間ドライブの後部座席で堪能する贅沢に与りました。校長&事務職を夫婦で仰せつかり11年目、その間ずっと北海道の地で祈ってくださったことに感慨ひとしお。

三日目の主日礼拝証し（妻）&説教（夫）奉仕（説教終了が10秒遅れ、牛が吠えるような正午のサイレンにかき消されて尻切れ）の後、懐かしい新婚卒業生牧師夫妻がお迎えに。立場替わって今度はこちらが校長夫婦です。夜更けまで語り合う中、「セイケーは牧会マインドがウリですよ」と、嬉しいことばをもらいました。彼氏は校長就任1年目の入学生ですから、手探りで奮闘する私たちを最初から間近で見、共に歩んだ仲なのです。夜中に高熱を出し、男子寮から救急病院へ搬送したこともありましたが、彼女にもエピソードいろいろですが、ヒミツにしておきましょう。札幌市内観光に甘えつつ、与えるのも受けるのも幸いです、と実感。アレ？ 聖句と違うかな。

● KAKIDEN終わる

Su先生の鶴の一声で数十年ぶりに動き出した、聖契夏期伝道、略してカキデン。別の神学校ですが筆者にとっても懐かしい思い出で、同行した仲間とは今でも交流があります。恐る恐る(?)在校生に参加者募集をかけたなら、これまた個性豊かな女性3名が手を挙げてくれました。7月4日夕、事務所隣の作業部屋（折り込みや図書整理、面談にも使う多目的ルームで呼称を募集中）に、Su先生と同行スタッフを加え総勢5名の女性が参集し、チーム始動！ 滑り出しは相互調整に苦労したそうですが（ワカルワカル）、見る見る結束力を高め、かき氷だ、ゴリヤテだ、アロマだと（詳しくは12月のニュースで）頻りにメールやりとりをして、8月19~21日の本番を迎えました。あんまり連絡がないので、三日目の朝、電話をしてしまいましたが、分刻みスケジュールでそれどころではなかったようです。現地速報は別刷りをご覧くださいととして、帰ってきた面々の生き生きしていること！ 9月5日夜チャペルでの証しは、中目黒5丁目に居るだけでは学べないことばかり。続けることに意義があるので、来年度はしっかりカキデン予算を確保し、早くから在校生諸君や教師に声をかけたいです(単位にしたいナ)。多くの支援献金を感謝します。

● いざ後期へ

9月16日、台風直撃で休講（校）になるかとの夢も破れ（卓上気象計が984hPaを示しビックリ）、どうにか駆け抜けた前期が28日に終了。3名の新聴講生を迎え、宿題のない（はずの）学期休みを経て、総勢71名は10月7日より後期をスタートします。卒業を控えた面々は、ついに最後の第四コーナーを回るわけですね。履修表（誰がどの科目をとるかの一覧表）を集計したら、昼クラス46科目、夜クラス96科目の履修数で、夜のほうが倍以上多いとわかりました。働きながら、奉仕をしながら学びを続ける在校生の多い本校の特徴と伝統が、こんなところにも現れています。わが新約神学も濃い（怖い）メンバー14名ということで、クラス運営をどうしたものかと思案しているところ。レハブアム王のようにもっとくびきを重くしたら分裂ですかね。10月26日のオープンキャンパス、ぜひお出かけください。チャペル説教&霊性の神学公開授業で、Yワールド（何のことやらお楽しみ）を満喫できるはず。新約緒論クラス公開では、伝説の(?)賑やかクラスが爆発しますよ。キリスト者の自由を地でいく方々、たのむからちょっと！

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 2013年度後期授業と在校生71名の学び、教職員15名と理事5名の働きが守られるように。10月26日献身者の集いに、関心を持つ多くの方々が来校されるように。
- ・ 本校の運営が支えられ、諸教会や他神学校との良き交わりと信頼関係に基づき、主にあたる献身者育成の使命を果たせるように。この時代にあつてのビジョン構築と展望のため。